

事務事業名	立地適正化計画策定事業	事業期間	2017 ~ 2019 年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	533

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0103	連続性のある土地利用と交流拠点の強化		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	都市計画策定事業費	会計コード	01	款	08	項	03	目	01	事業	05
-----------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
国土交通省所管法令であります都市再生特別措置法の改正に伴い、都市再生基本方針に基づき、居住誘導区域及び都市機能誘導区域を定めコンパクトな都市構造への転換を図っていくため、茅野市の現状に合った立地適正化計画を策定します。

現状と背景
(どうして)
地方都市の拡散した市街地での人口の減少や高齢者の急増が見込まれる中で、都市全体の構造を見渡し、住宅及び医療、福祉、商業等の施設がまとまって立地し、それらを利用する住民のための公共交通に関する施策を構築し、コンパクトなまちづくりを進めていくため、計画を作ります。

目的
受益者
(誰のために)
市民
対象
(直接働きかける)
市民、県等関係機関
意 図
(どんな状態にしたいか)
立地適正化計画は、作成計画が中長期にわたることから、「まちづくりの動向や関連施策と整合する。」、あるいは、「関連する各種計画と整合する。」ように策定を行う。

手段・方法
(どうやって)
計画案の検討に入るための基礎的資料を整理するため、基礎的調査（人口動向、土地利用、交通体系、都市施設の機能、経済活動、地価、災害、財政、医療・介護費動向）を行い課題等の分析を行います。分析結果を基に都市計画マスタープランの基本方針に基づき、居住及び都市機能の誘導区域を設定していきます。
案の策定にあたっては、庁内部署との調整を図るため、庁内検討委員会及び作業部会を設置し関係機関との協議調整を図りながら進めていきます。計画案の素案が出来たところで、パブリックコメントや住民説明会を経まして、都市計画審議会にて諮問を図り計画の策定を行います。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	課題問題点解決のための協議及び調整	課題問題点解決率	%	解決策/課題問題点×100	100
	2	審議会を開催する	審議会開催回数	回	審議会を開催した回数	2	
	3						
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	当該年度までの進捗率	計画案進捗状況	%	計画予定出来高/現時点出来高×100	100	
		諮問した案件が「可」とする答申を得る	「可」と答申された案件率	%	諮問案件数/「可」と答申された案件数×100	100	
	変更履歴						

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	4,988,603	480,000	
財 源 内 訳	国庫支出金	円	1,930,000				
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	3,058,603	480,000			
活 動 指 標	課題問題点解決率	目標	%	100	100		
		実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	審議会開催回数	目標	回	2	2		
		実績	回	2			
		達成率	%	100.00	-	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成 果 指 標	計画案進捗状況	目標	%	100			
		実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	「可」と答申された案件率	目標	%	100			
		実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-
備 考							

事務事業名	立地適正化計画策定事業		事業期間	2017	～	2019	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係				連絡先	533	

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
	課長評価日					

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指標要因分析	庁内検討委員会等や関係団体等との調整を繰り返し行うことで課題の解決につながり、また、計画を策定することができた。				
	総合評価	誘導区域の大幅な変更に伴い、庁内検討委員会等や関係団体等との調整に時間を要し、計画策定が大幅に遅れてしまったが、パブリックコメント及び住民説明会の実施や都市計画審議会の同意を得て計画策定をすることができた。				
	課題	今後は、茅野市都市計画マスタープラン等上位計画や関連計画と整合を取りながら、コンパクトなまちづくりを推進していくことが必要である。				
	改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	2018年度で立地適正化計画策定済み。コストは、大規模盛土造成地変動予測調査の実施による増となる。				

作成担当者	東城 昭紀				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				

事務事業名	駐車場管理事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	533	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0103	連続性のある土地利用と交流拠点の強化		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	駐車場管理費	会計コード	01	款	08	項	03	目	05	事業	02
-------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
茅野市営青空駐車場・茅野市営地下駐車場・茅野市営茅野駅東口自動パーキング・茅野駅前駐車場、青柳駅前駐車場の5駐車場の整備及び運営を行っています。

現状と背景
(どうして)
茅野駅周辺は多様な目的で訪れる人が多く、交通政策面で考えると、駐車場の設置は違法路上駐車等の抑止効果があり、円滑な道路交通が確保されています。駐車場利用者の側面から考えると、生活の利便性向上に効果があります。

目的
受益者(誰のために)
買い物・娯楽・会合・観光・通勤・ビジネス等で茅野駅周辺を訪れる車両利用者
対象(直接働きかける)
駐車場施設
意図(どんな状態にしたいか)
駐車場利用者が安全で快適に利用することができる。

手段・方法
(どうやって)
青空駐車場・地下駐車場は3時間無料としています。青空駐車場は、パーク&ライドを実施しており、特急あずさ利用者は1日500円で利用することができます。地下駐車場では、ベルビアの施設(0123広場・マリオーヤル会館・透析センターほのぼの・茅野産業振興プラザ)利用者について時間を制限し無料にしています。また、地下駐車場では100台、茅野駅前駐車場では21台、青柳駅前駐車場では16台の月極契約を実施しています。東口自動パーキングは、茅野駅の送迎用駐車場(30分無料)としています。このように利用者のニーズに合った種別の異なる駐車場を提供し、トラブルが発生したときの対応を適切に行うことにより、快適かつ利便性の高い駐車場施策を実現しています。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	トラブルに対する適切な対応	トラブル対応回数	回	トラブル対応回数/トラブル発生回数×100	100
	2						
	3						
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	トラブルからの苦情非発生率	苦情非発生率	%	(1-苦情数/365日)×100	100	
	2						
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)	円	27,708,704	23,962,000		
国庫支出金		円					
県支出金		円					
地方債		円					
その他特定財源		円	27,708,704	23,962,000			
活動指標	トラブル対応回数	目標	100	100			
		実績	100				
		達成率	100.00	-	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-	-	-	-	-
成果指標	苦情非発生率	目標	100	100			
		実績	100				
		達成率	100.00	-	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-	-	-	-	-
備考							

事務事業名	駐車場管理事業		事業期間	~	年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係			連絡先	533

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指要標因分～析	トラブル発生時の適切・迅速な対応により、苦情の発生を防止できた。				
	総合評価	<p>成果</p> <p>トラブル発生件数の半数程度を占めていた東口パーキングについて、フラップ版を改修し、トラブル発生回数が減少した。</p> <p>課題</p> <p>地下・青空駐車場のゲートバー破損トラブルが毎年5件程度発生している。駐車場利用者の不注意によるものであるため、同水準を維持しているため、トラブル発生回数減少に向けた新たな取組みが必要。</p>				
	改革・改善の方向性(ACIT)策び容	<p>翌年度方向性</p> <p>成果 コスト</p> <p>拡充 拡大</p> <p>改革</p> <p>コストの方向性の内容</p> <p>トラブル発生時に一定の時間を要する内容が同水準を維持しているため、原因を分析し、適切な注意喚起を図る。コストは、市営地下駐車場泡消火施設の改修に伴う工事費の増となる。</p>				

作成担当者	梯 泰弘				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				

事務事業名	駅周辺施設管理事業	事業期間	～	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	533	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0402	都市環境形成の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0403	福祉のまちづくりの方針		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	駅周辺施設管理費	会計コード	01	款	08	項	03	目	05	事業	03
-------	----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 茅野駅周辺の市が所有する施設（時計塔、照明施設、駅東西口の前交通広場、トイレ、エレベーター、橋上駅線自由通路等）について、利用者が毎日安全で快適に利用でき、各施設の機能が低下することのないよう施設の保守点検を定期的に行い、環境保全を含めた維持管理を行います。

現状と背景
 (どうして)
 観光都市の玄関口に当たる茅野駅は、観光客を含め多くの利用者がいます。駅周辺の公共施設である駅前広場、トイレ、自由通路等の清掃を毎日続けることで、公衆衛生が維持されています。また駅西口の施設は既に25年以上経過した施設があり、痛みの激しい箇所が見受けられるため、定期的な保守点検や修繕、補修が必要です。

目的
 受益者
 (誰のために)
 茅野駅周辺を利用される市民、観光客

対象
 (直接働きかける)
 茅野駅周辺の施設

意図
 (どんな状態にしたいか)
 駅周辺利用者が施設を安全に快適に利用できるよう、施設の保守点検、維持管理を行い良好な環境を整えます。

手段・方法
 (どうやって)
 観光都市の玄関口にふさわしい駅周辺の良好な環境保全を保つため、駅東口・駅西口広場、トイレ、公園等の清掃業務を毎日実施します。また、照明等各種施設の保守点検を実施し、補修等の必要な箇所については随時維持修繕工事を行います。また冬期間については、除雪を行い歩行者交通の確保に努めます。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	1 駅周辺の清掃	清掃作業	回	毎日の清掃	365
	2 施設の点検	点検作業	回	毎月の点検	12
	3				
変更履歴					

成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	1 施設に対する苦情をゼロにする	苦情非発生率	%	(1-苦情数/365日) × 100	100
	2				
変更履歴					

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	21,243,977	17,670,000			
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
活動指標	清掃作業	目標	回	365	365		
		実績	回	365			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	点検作業	目標	回	12	12		
		実績	回	12			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
	成果指標	苦情非発生率	目標	%	100	100	
実績			%	100			
達成率		%	99.70	-	-	-	
-		目標	-				
	実績	-					
達成率	%	-	-	-	-		
備考							

事務事業名	駅周辺施設管理事業		事業期間	~	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係			連絡先	533

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K) 改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	清掃作業、点検作業を委託により計画通り実施。不具合が生じた箇所については修繕を行い、苦情件数を最小限に抑えられた。				
	総合評価	施設の老朽化が進む中、ソフト面の管理を徹底することで、公衆衛生を維持することができた。				
	課題	駅西口の施設は既に25年以上経過した施設があり、痛みの激しい箇所が見受けられるため、定期的な保守点検や修繕、補修のほか、大規模改修等の検討をする必要がある。				
改革・改善の方向性の内容	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大			
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	清掃作業、点検作業の継続的な実施により、公衆衛生の維持に努める。また、施設の老朽化により軽微な修繕を毎年実施していることから、大規模改修等について、コスト面から検討する。コストは、仲町通線22基、東口ロータリー13基の街路灯LED化更新工事費による増となる。				

作成担当者	梯 泰弘				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				

事務事業名	宮川茅野地区まちづくり整備事業	事業期間	2009 ~ 2019 年度	係内番号	07
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	532

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0201	道路ネットワーク形成の方針		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	宮川茅野地区まちづくり整備事業費	会計コード	01	款	08	項	03	目	07	事業	01
-------	------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
宮川茅野地区約1.7haを土地区画整理事業によって整備を行ったが、この事業により都市計画道路上川橋線を整備するとともに、区画道路及び公園等の基盤整備をして、土地の有効利用を促進し、安全で快適な環境整備を図り活力ある魅力的なまちづくりを再構築する。

現状と背景
(どうして)
現在の宮川茅野地区は、商店活動が著しく停滞し、まち全体の活力が低下している地域である。

目的
受益者
(誰のために)
権利者及び周辺住民と、この地域を訪れる市民。
対象
(直接働きかける)
宮川茅野地区土地区画整理事業地内(1.7ha)の権利者。
意図
(どんな状態にしたいか)
古くからの歴史と文化の面影を色濃く残すまちであるため、その歴史的資産を活用し市街地の再構築を進める。

手段・方法
(どうやって)
宮川茅野地区まちづくり協議会との協議を重ね、案内板の意匠や配置について検討し随時整備を行う。また、上川橋線街路整備事業の進捗に合わせて、街路灯を設置して順次供用を開始する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	宮川茅野地区まちづくり協議会の開催	協議会の開催数	回	年間の宮川茅野地区まちづくり協議会の開催	2
		2					
		3					
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	宮川茅野地区まちづくり整備事業の進捗	整備事業進捗率	%	整備進捗割合	100	
	2						
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	2,691,155	13,890,000			
	国庫支出金	円	470,000	5,380,000			
	県支出金	円					
	地方債	円		7,200,000			
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	2,221,155	1,310,000			
活動指標	協議会の開催数	目標		2			
		実績		3			
		達成率	%	150.00	-	-	-
	-	目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	整備事業進捗率	目標	%	100	100		
		実績	%	25			
		達成率	%	25.00	-	-	-
	-	目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	宮川茅野地区まちづくり整備事業		事業期間	2009	～	2019	年度	係内番号	07
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係					連絡先	532

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指標要因分析	本事業は、五箇年計画で事業完了を目指している。本年度までに、88%完了予定のところ、78%が事業完了している				
	総合評価	県施行事業区間と同一現場外については、協議会を順次進め、地元調整が図れ、計画通り事業が進められた。				
	課題	県施行事業区間と同一現場のため、県の実情に事業進捗が左右される。(本年度、7割の事業費を県施行事情により繰り越す。)				
改革・改善の方向性(AC T)	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大			
	改革やコストの方向性の内容	2019年度で事業完了但し、2020年度事業効果事後評価委託を実施予定。コストは、R元年度交付金事業が完了するため、事後評価調査を単費で実施することから増となる。				

作成担当者	黒澤 俊彦				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				

事務事業名	本町地区まちづくり整備事業	事業期間	2015 ~	年度	係内番号	08
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	534	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0201	道路ネットワーク形成の方針		
			実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	本町地区まちづくり整備事業費	会計コード	01	款	08	項	03	目	07	事業	02
-------	----------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 平成11年に策定された茅野市中心市街地活性化基本計画の中で、中心市街地領域に含まれている本町地区は、都市計画道路観音通線をはじめとする道路網整備にあわせた商店街の活性化が求められています。これからのまちづくりを考える上で、地元のみまちづくり検討委員会を核として、地元と行政が一体となったまちづくりを進めていきます。

現状と背景
 (どうして)
 本町地区は、茅野駅が出来る以前から周辺地域の人々が交流してきた歴史には古い商店街であり、県道八ヶ峰公園線を軸として栄えてきましたが、近隣への大規模店舗の立地等により商店街は疎密となっています。この地域の賑わいを再生するためには、現道の整備を含めた街並みの再編が重要であると考えます。

目的
 受益者 (誰のために)
 市民、地域住民、道路利用者
 対象 (直接働きかける)
 市民、地域住民
 意図 (どんな状態にしたいか)
 事業化の可能性、方向性を探り、道路や沿道整備を絡めたまちづくりを推進していきます。

手段・方法
 (どうやって)
 茅野市都市計画マスタープランのもと立地適正化計画を策定し、居住誘導区域に定められている本町区でのまちづくりを積極的に行います。人口減少の中にあっても人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう検討していきます。具体的には、本町地区住民の合意形成と事業手法の決定を、関係機関と連携を図りながら進めていきます。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	魅力あるまちづくりの検討	本町まちづくり活動	回	年間のまちづくり会議の開催回数
2						
3						
変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	計画の策定	計画策定進捗率	%	計画策定の進捗割合	100
2						
変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)	円	5,956,000	7,351,000		
国庫支出金		円					
県支出金		円					
地方債		円					
その他特定財源		円					
	一般財源	円	5,956,000	7,351,000			
活動指標	本町まちづくり活動	目標	回	5	3		
		実績	回	5			
	達成率	%	100.00	-	-	-	
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	計画策定進捗率	目標	%	100	100		
		実績	%	100			
	達成率	%	100.00	-	-	-	
	-	目標	-				
		実績	-				
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	本町地区まちづくり整備事業		事業期間	2015 ~	年度	係内番号	08
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係		連絡先	534	

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K) 改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T) 策 び 容	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	～成果変果動指要標因分～析	この地域の賑わいを再生するためには、現道の整備を含めた街並みの再編が重要である。2017年には区会にて現道(県道八子ヶ峰公園線)に都市計画道路を変更することが決定された。 また、まちづくり活動によって、地元本町区のまちづくりに対する機運は高まりつつある。					
	総合評価	本町まちづくり活動が、本町区の代表を中心に行われ、“本町のまちづくりの方向性”と“観音通線(本町商店街通り)のあり方”に関する意見が取りまとめられた。都市計画道路の変更に伴う、本町のあり方について、多方面から議論ができた。 課題 2018年度の計画は目標通り策定されたが、あくまでも本町区の代表者によるものである。よって、2019年度は地権者を含めた検討を行い、計画の熟度を高める必要がある。					
	翌々年度方向性	成果 コスト 拡充 拡大					
改革・改善の方向性の内容	本町地区まちづくり活動には、沿線住民は勿論のこと市民の同意が欠かせない。広範囲な事業な上に、多くの権利者が絡むこととなるため、シミュレーションツール等を活用し、早期の合意形成を図りたい。シミュレーションツール活用に当たっては、新たなコストが見込まれるが、当事業を分かりやすく関係者へ伝える手法として導入を検討している。 また、コスト削減としてws等ではコンサルに異存することなく、職員が積極的にファシリテート役を行い人件費削減に努めたい。						

作成担当者	宮坂 悠哉				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				

事務事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	09
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	534	

政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
		基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0102	量的な拡大から質的な充実に配慮した土地利用の推進		
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
		実行計画	02	立地適正化計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業費	会計コード	01	款	08	項	04	目	05	事業	04
-------	------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 茅野市都市計画マスタープラン及び茅野市立地適正化計画では、「JR茅野駅周辺を「都市機能集約拠点」として位置づけており、駅を中心とした市民生活のための商業機能、人々の交流を促す交流拠点機能、観光都市の玄関としての機能の集積により人と情報が行き交う土地利用を図るものとしていることから、駅西口駅前広場周辺の再構築が急務となっている。また、都市機能誘導区域、居住誘導区域の中心拠点に位置し、茅野市の玄関口でもあることから、JR茅野駅周辺の土地利用及び上位計画で描くグラウンドデザインとの整合について検討するものとする

現状と背景
 (どうして)
 茅野駅西口駅前広場は、1987年の茅野駅前第一種市街地再開発事業から30年以上の年月が経過し、施設の老朽化や使い勝手が時代の変化と共に顕著に現れてきている。また、上位計画や立地適正化計画に基づき、人口密度の確保、駅としての機能や賑わいの創出、茅野市の玄関口としてのおもてなしなど、駅周辺に課せられた課題を克服するため、茅野駅西口駅前広場周辺の再構築が重要であると考え。

目的
 受益者 (誰のために)
 茅野駅周辺を利用される市民、観光客など。
 対象 (直接働きかける)
 茅野駅周辺の施設及び土地利用。
 意図 (どんな状態にしたいか)
 『日々の生活の中におもてなしを育む安心・快適な茅野市の玄関口』を基本理念に「賑わいの創出」、[駅から広がるおもてなし]、[交通結節機能の充実]、[安心・快適な空間づくり]を目指す。

手段・方法
 (どうやって)
 立地適正化計画に基づき、茅野駅西口駅前広場周辺のリニューアル整備に向けた基本計画を策定し事業化する。このためには、地域からの意見も踏まえながら、今後20年間の将来像も考慮した専門的な内容を検討していく必要があることから、駅前広場に関する専門家、まちづくりに関する専門家、都市空間の賑わい創出に知見を有する者、地元有識者からなる「茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル基本計画策定有識者委員会」を発足し、検討・検証を行い基本計画へ反映していくものとする。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	西口駅前広場周辺の再構築	有識者委員会	回	年間の有識者委員会の開催回数
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	整備計画の策定	計画策定進捗率	%	計画策定の進捗割合
	2					
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)	円	5,050,000	39,900,000		
国庫支出金		円		10,000,000			
県支出金		円					
地方債		円					
その他特定財源		円					
	一般財源	円	5,050,000	29,900,000			
活動指標	有識者委員会	目標	回		5		
		実績					
	-	目標	%	-	-	-	-
		実績					
	-	目標	%	-	-	-	-
		実績					
成果指標	計画策定進捗率	目標	%		100		
		実績					
	-	目標	%	-	-	-	-
		実績					
	-	目標	%	-	-	-	-
		実績					
備考							

事務事業名	茅野駅西口駅前広場周辺整備事業	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	09
担当部署	都市建設部	都市計画課	都市計画係	連絡先	534	

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果要因分析	意見交換、アンケート調査の結果を基に、構想検討委員会において、現状の課題や問題点についてWSを重ねることで、課題の整理が行われ、基本計画策定に向けた、構想案がまとめられた。				
	総合評価	<p>成果</p> <p>構想検討委員会を開催して、検討を重ねることで、課題や問題点の整理が出来、基本計画策定に向け、現状把握が出来て、構想案の叩き台が作成出来た。</p> <p>課題</p> <p>構想検討委員会で作成した構想案を叩き台に、基本計画を策定する段階になるが、基本計画を作成するには、学識経験者からなる有識者委員会を設置してより専門的な観点から議論していただく必要がある。</p>				
	改革・改善の方向性の内容	<p>成果</p> <p>西口駅前広場周辺の整備には、行政だけの主導では難しいので、UR都市機構との協定により、まちづくり支援や、専門家のマッチングなど、民の力も借りながら、事業の円滑、コスト削減を図り計画策定を進めている。しかし、整備計画が策定出来、国の交付金が事業化されるまでは、限られた補助事業での作業になるため、単費の割合は多くなると見込まれる。</p>				
改革・改善の方向性の内容	<p>成果</p> <p>拡充</p> <p>コスト</p> <p>拡大</p>					

作成担当者	宮坂 悠哉				
最終評価責任者	岩崎 研二				
最終評価年月日	2019.5.17				